

テーマ：貿易統計（2014年9月）
～輸出、輸入ともに高めの伸びに～

発表日：2014年10月22日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝
TEL：03-5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量					
		輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		アジア		アメリカ		EU		アジア	
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比									
13	9月	▲ 9432	▲ 11080	11.4	16.7	▲ 1.8	▲ 1.2	▲ 2.2	▲ 4.0	▲ 2.1	▲ 5.7	14.1	1.4				
	10月	▲ 11004	▲ 12193	18.6	26.3	4.4	5.3	8.0	2.0	6.4	▲ 2.0	6.0	3.3				
	11月	▲ 13011	▲ 13449	18.4	21.2	6.2	2.9	0.4	5.9	3.4	21.2	▲ 7.0	1.8				
	12月	▲ 13072	▲ 11821	15.3	24.8	2.5	▲ 4.6	5.4	2.2	4.7	1.1	16.9	1.8				
14	1月	▲ 27950	▲ 17237	9.5	25.1	▲ 0.2	6.3	5.5	▲ 2.0	8.0	15.3	9.2	10.9				
	2月	▲ 8047	▲ 11486	9.8	9.0	5.4	▲ 1.0	8.2	5.0	▲ 0.5	16.0	8.6	▲ 2.9				
	3月	▲ 14507	▲ 15950	1.8	18.2	▲ 2.5	1.5	▲ 0.3	▲ 4.9	11.6	13.3	12.8	11.3				
	4月	▲ 8149	▲ 8715	5.1	3.4	2.0	▲ 1.5	4.8	▲ 1.3	▲ 1.3	6.2	0.7	1.1				
	5月	▲ 9108	▲ 8593	▲ 2.7	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 1.9	6.4	▲ 4.9	▲ 4.0	1.0	▲ 0.7	▲ 2.3				
	6月	▲ 8285	▲ 10686	▲ 1.9	8.5	▲ 1.6	▲ 1.8	4.5	▲ 5.4	7.2	6.4	7.9	8.2				
	7月	▲ 9649	▲ 10167	3.9	2.4	1.0	▲ 1.0	3.7	0.7	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 2.8	▲ 2.7				
	8月	▲ 9497	▲ 9124	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 2.9	▲ 6.2	1.0	▲ 3.4	▲ 4.6	▲ 2.3	▲ 3.3	▲ 5.0				
	9月	▲ 9583	▲ 10701	6.9	6.2	2.8	▲ 1.1	▲ 4.8	4.9	3.0	0.0	4.5	3.1				

(出所)財務省「貿易統計」

○輸出、輸入ともに高めの伸びに

9月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は9,583億円の赤字（コンセンサス：▲7,715億円、レンジ：▲10,460～▲5,533億円）となった。季節調整値で見ると、輸出が前月比+3.1%、輸入は+5.0%であり、輸入が輸出よりも増加したことから貿易収支は10,701億円の赤字と前月から赤字幅が拡大し、2ヶ月ぶりに1兆円超の貿易赤字となった。輸出金額の増加は、円安による価格面からの押し上げが大きいですが、数量においても増加が確認でき、輸出は持ち直し基調にあると判断されよう。今後の動向に注意は必要だが、輸出のはっきりとした増加が確認できたことは好材料だ。

物価変動の影響を除いた9月の実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比+2.3%（8月：同▲0.3%）と増加した。8月に減少したことで輸出の停滞を懸念していたが、9月は増加に転じており均してみれば緩やかな増加基調は途切れていないとみられる。

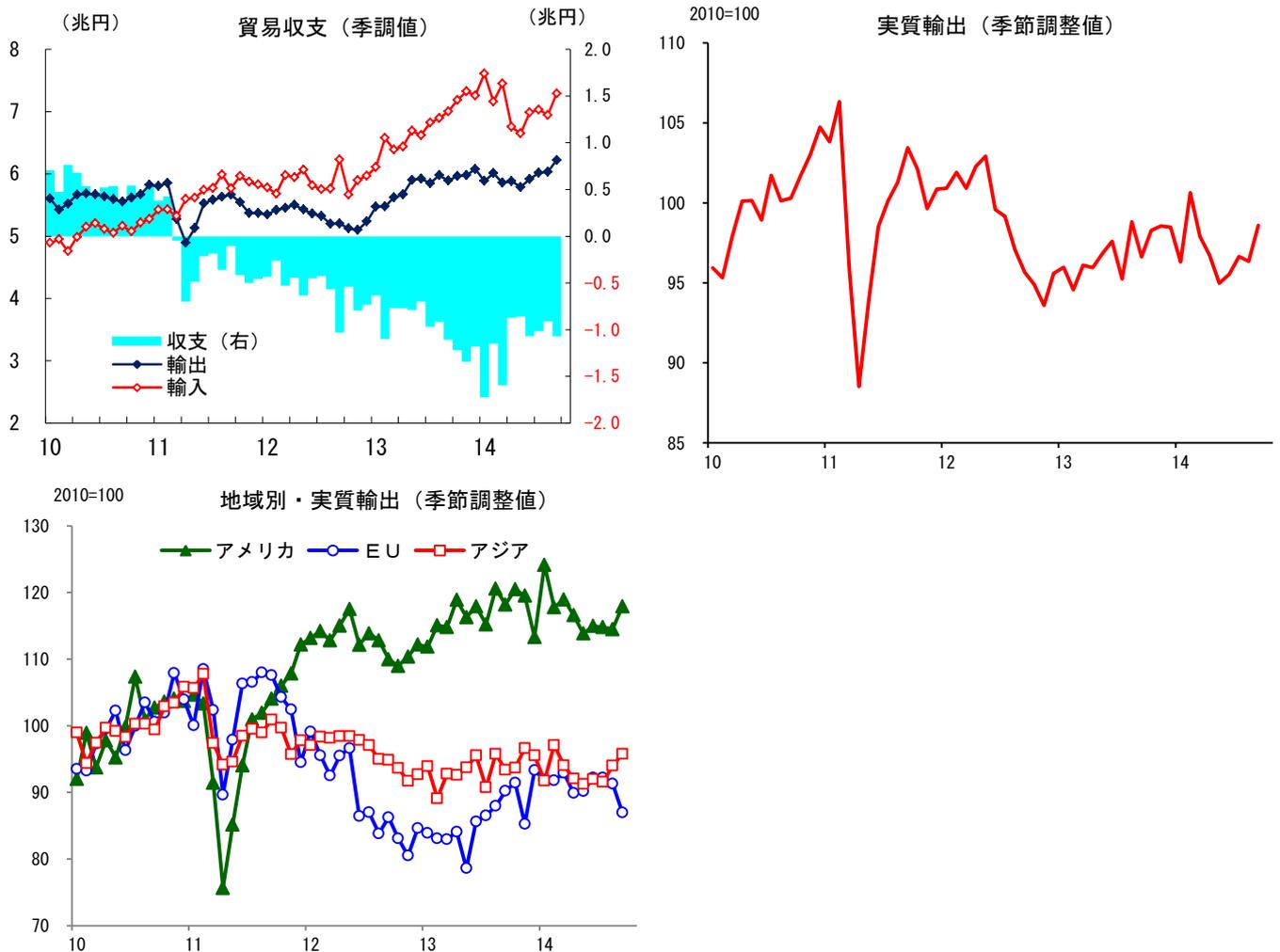
9月実質輸出を地域別に見ると、米国向けが前月比+3.0%、アジア向けが同+1.9%と増加した。米国向けは輸送用機器と一般機械が高い伸びとなったことが背景にある。アジア向けは輸送用機器、化学製品、一般機械など、幅広い項目で増加しておりバランスのいい内容だ。米国向け、アジア向けともに一般機械の増加が輸出を押し上げている。一般機械輸出の先行指標である機械受注統計の外需は4月以降水準が切り上がっており、同分野の輸出拡大が期待されていたが、ここに来て受注の伸びが輸出に結びついてきたようだ。機械受注（外需）は足元まで振れを伴いつつも高水準を維持しており、今後も一般機械輸出の下支えが期待できる。一方で、ブレーキとなったのが、欧州向け（同▲4.7%）である。欧州向けは2ヶ月連続の減少であり、減少幅も大きい。単月での評価は難しいものの、足元では欧州のけん引役であるドイツ経済に悲観論が高まっていることなどもあり今後の動向に注意が必要だろう。

7-9月平均の実質輸出は前期比+1.5%と3四半期ぶりに増加した。4-6月（前期比▲2.6%）の減少分は取り戻せていないものの、徐々に持ち直している。地域別に見ると、米国向けが前期比+0.5%、欧州向けが同▲0.7%、アジア向けが同+2.2%とアジア向けが輸出全体を押し上げた。

○先行きは輸出、輸入ともに増加を予想

先行きの輸出は、海外経済の回復を背景に持ち直し基調で推移していくものと見ている。ただし、その持ち直しペースは緩やかなものに留まるだろう。海外経済をみると、米国経済は引き続き堅調さを維持しているものの、欧州経済は回復感に乏しい状況であり、アジア経済は力強さに欠ける状態が続いている。海外経済の足取りが鈍いことに加え、輸出の大きな割合を占める輸送用機器で現地生産が拡大しており、こうした動きも輸出の抑制要因となっている。他方、輸入は内需の回復を背景に増加傾向で推移すると見込んでいるが、内需の回復が鈍いことに鑑みると、当面増加ペースは緩やかなものとなりそうだ。総じてみれば、先行きの輸出、輸入ともに増加を予想している。

なお、9月の経常収支（季節調整値）は黒字を見込んでいるが、黒字幅は小幅なものに留まるとみている。



(※) 出所はすべて、財務省「貿易統計」。実質輸出の実質化、および季節調整は第一生命経済研究所。